

令和7年 11月7日
農業遺産シンポジウム

世界農業遺産



木・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム

生活協同組合コープしが 組織広報部 西地区運営事務局
事務局長 西口 とも子

琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会
(滋賀県 農政水産部 農政課) 岡村 貴司



滋賀県・琵琶湖の概要

滋賀県

人口 (2025年10月1日現在)

約139.7万人

面積

4,017 Km²

平均寿命 (2023年)

82.73歳 (男性) ※全国1位

88.26歳 (女性) ※全国2位



琵琶湖

日本最大の湖

面積: 約670 km²

日本唯一の古代湖

約440万年の歴史をもつ、世界でも有数の古い歴史を持つ湖

貯水量

約 275 億トン

近畿約1450万人への命の水を供給

滋賀県は耕地面積の9割以上が水田

水稻栽培が盛んな米どころ！

世界農業遺産

「森・里・湖」に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム



水田営農に支えられながら発展してきた伝統的漁業を核とした「琵琶湖と共生する農林水産業」を「森・里・湖(うみ)に育まれる 漁業と農業が織りなす琵琶湖システム」と呼んでおり、令和4年7月18日に「世界農業遺産」に認定された。

このシステムは1,000年以上にわたる歴史の中で育まれた自然と人の持続的な共生モデルといえるものであり、この伝統的なシステムを継承することは、当地域に住む私たちに課せられた「責務」であると考えている。

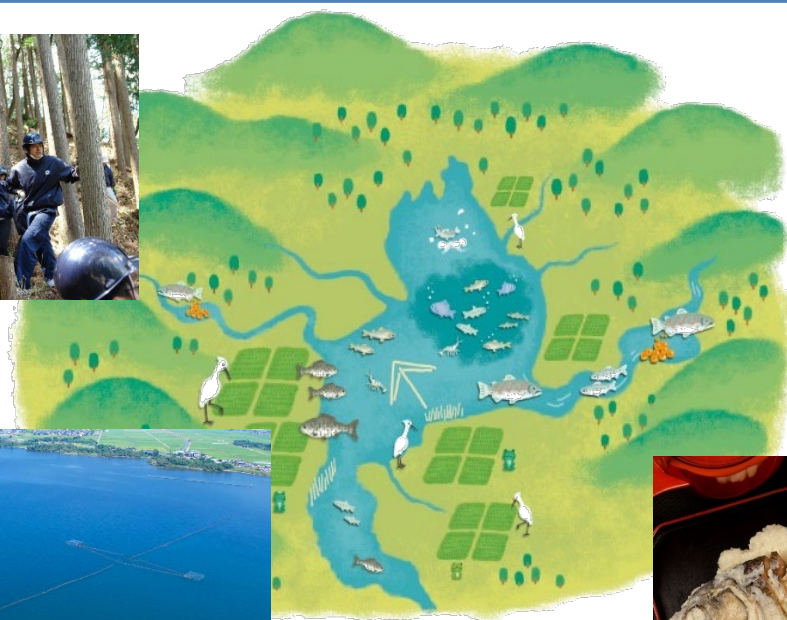
林業

水源林の保全

水源林の保全には、漁業者や地域住民も参画している。山に木を植えて育てることが洪水や渇水を防ぐことに役立っているほか、川に上って産卵する湖魚の繁殖環境の保全にもつながっている。



水源林保全活動



魚のゆりかご水田を泳ぐ稚魚

農業

環境に配慮した農業

琵琶湖の水質や生態系を守るため、排水を管理し農薬や化学肥料を減らす「環境こだわり農業」やオーガニック農業、琵琶湖から田んぼに遡上して産卵する湖魚を支える「魚のゆりかご水田」などが営まれている。

漁業

伝統的な琵琶湖漁業

千年以上の歴史を持つエリ漁は、魚の習性を利用し、「つぼ」と呼ばれる部分で漁獲する。必要なサイズ・量だけを漁獲できる持続可能な漁法として、現代に受け継がれている。



琵琶湖の小型定置網「エリ」

食文化

伝統的な食文化とお祭り

「鮒ずし」に代表される湖魚をご飯に漬け込んで発酵させる保存食「なれずし」は、贈り物や祭礼のお供えにも使われてきた。こうした食文化や祭礼は、地域の絆の醸成にもつながっている。



ふなずし

琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業は、国連の定めた持続可能な開発目標 (SDGs) の17の目標の達成に寄与しており、特に「6 安全な水を世界に」、「14 水産資源の保全」、「15 陸域生態系の保全」、「17 パートナリーシップで目標を到達しよう」などの達成にも貢献しています。

また、琵琶湖版SDGsであるマザーレイクゴールズ (MLGs) にも、大いに貢献しています。





魚のゆりかご水田

- ニゴロブナなどが産卵のために遡上する水田
- 雨季の水位上昇時に琵琶湖から遡上
- ほ場整備により、水田の水面と落差が大きくなった水路には魚道を設置
- 水田でふ化した稚魚が琵琶湖に下るため、水産資源の保全に寄与



魚道の設置



設置された魚道



水路を遡上する魚

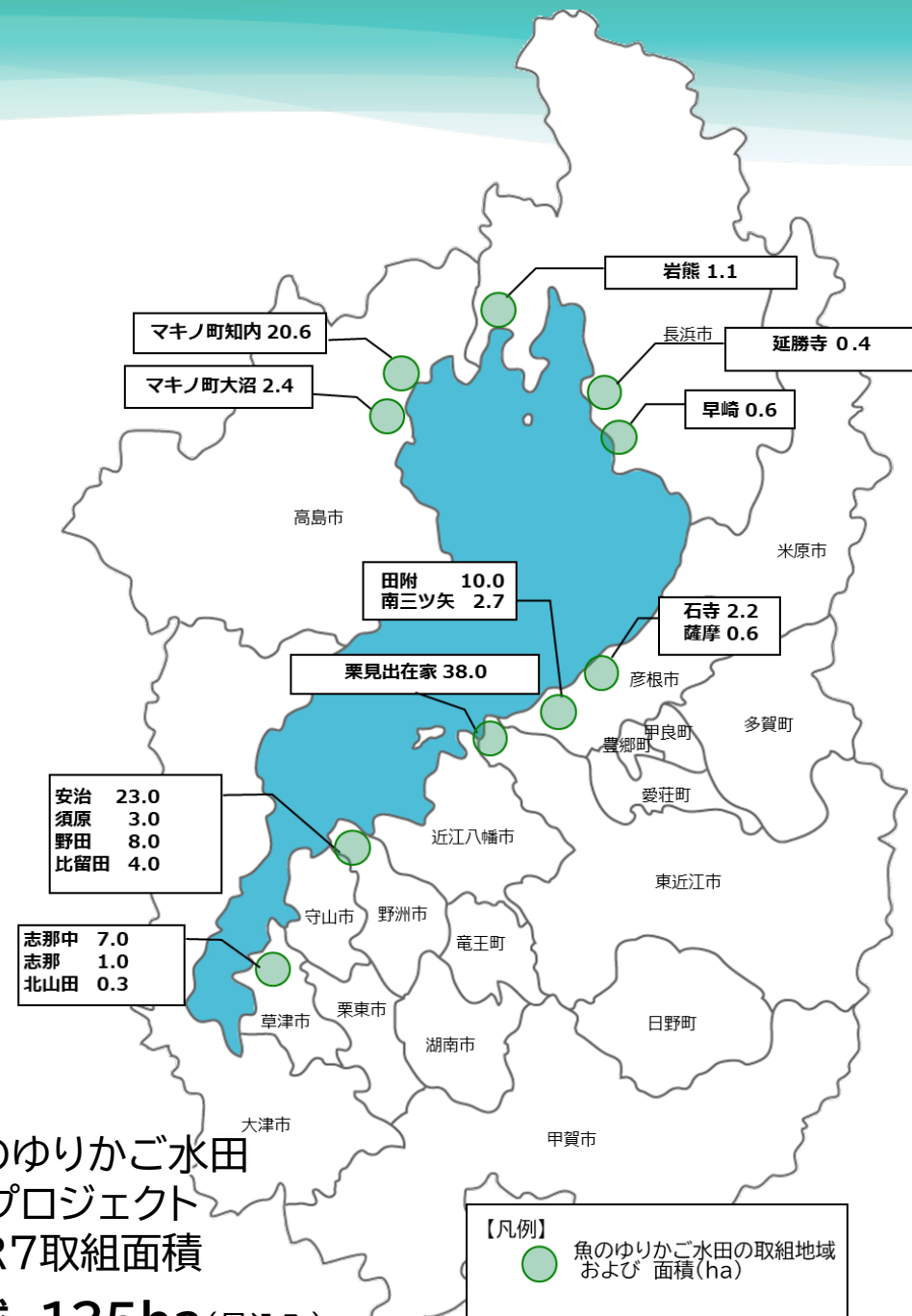


水田を泳ぐ稚魚



魚のゆりかご水田
プロジェクト
R7取組面積

17地域 125ha(見込み)







琵琶湖システムへの企業・大学等の関わり



株式会社万代様

株式会社万代様におかれましては、滋賀県の世界農業遺産「琵琶湖システム」の取組にご賛同いただき、毎年御寄附を頂戴しております。
頂いた御寄附は、「琵琶湖システム」から生み出された湖魚と県産農産物を活用した新商品「びわ湖魚グルメ」製造事業等に活用させていただきます。

・株式会社万代様のご紹介

株式会社万代は、1日平均約42万人、年間1億5千万人以上のお客様にお越しいただいている、関西圏を中心に食品スーパーマーケットを展開している企業です。



お客様の暮らしを「より豊かに」「より美しく」「より快適に」を合言葉に様々な事業に挑戦しています。万代グループの農業法人として、「滋賀県でどこよりも安心・安全でおいしい野菜・果物を生産してお客様に提供したい」との想いを込めて滋賀県野洲市に「グリーンエコスター」を2005年に設立、主にイチゴ・小松菜などの有機栽培を手掛けており、日々・うまみを原産とした独自ブランドは出荷が盛んな人気の人気となっています。

そのグリーンエコスターでの栽培品を万代の各店舗を通じてお客様へ提供させていただいております。

企業版ふるさと納税(滋賀県HP)



魚のゆりかご水田イベントへの参加



魚道設置のための資材の提供や技術的な協力



協定企業による水源林の保全



関連グルメの開発



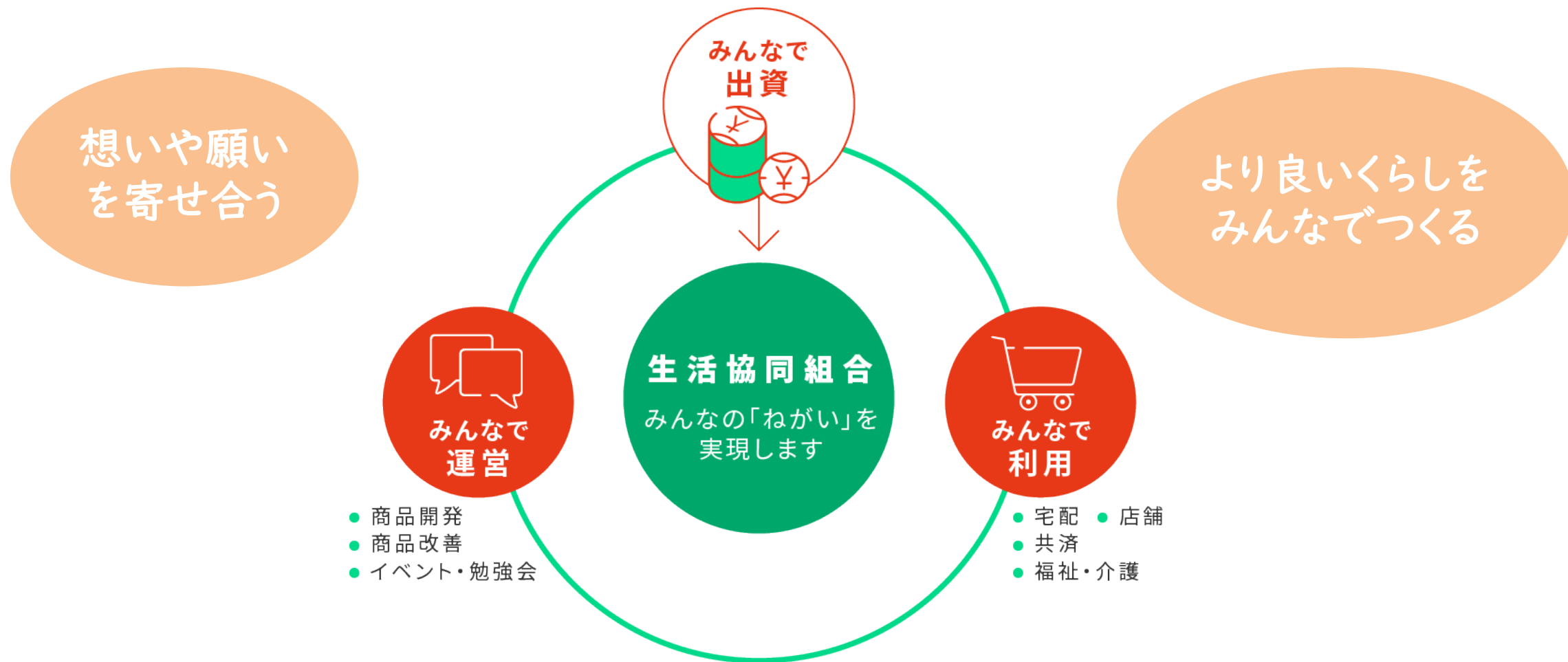
関連商品の開発

目次

1. コープしがについて
2. しがのふるさと支え合いプロジェクト
魚のゆりかご水田 について
3. 高島市マキノ町 知内農業組合とのとりくみ
4. 今後に向けて



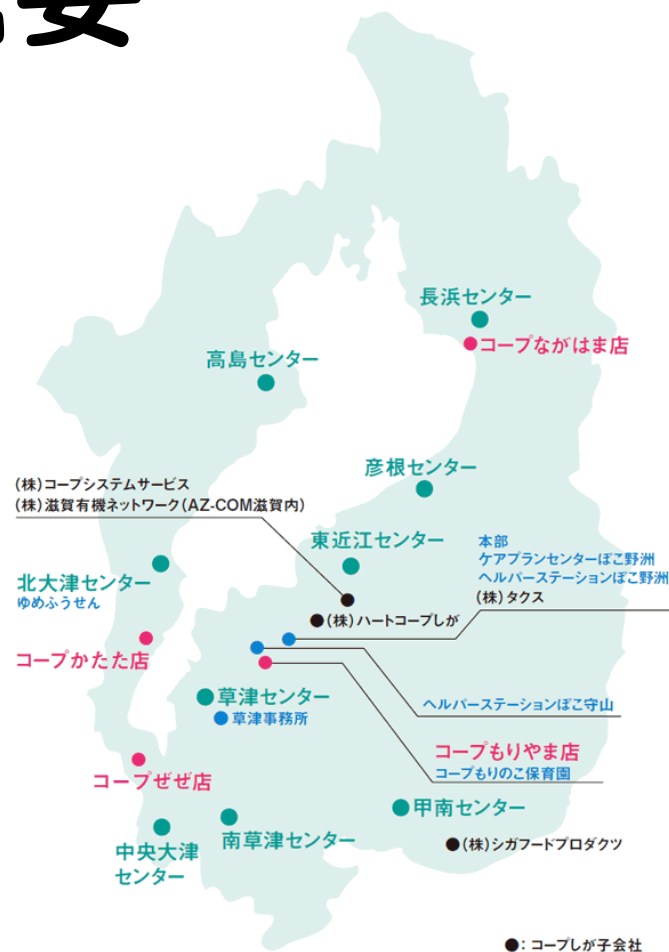
生協・協同組合とは？





コープしがの概要

- ◆理念 「ともにつくる 笑顔あふれる未来」
- ◆設立 1993年3月21日
- ◆本部 滋賀県野洲市富波甲972番地
- ◆組合員数 22万3862人
- ◆加入率 37.0%
- ◆事業 宅配事業・店舗事業・夕食サポート事業
共済事業・エネルギー事業・介護事業 等
- ◆職員数 1590人

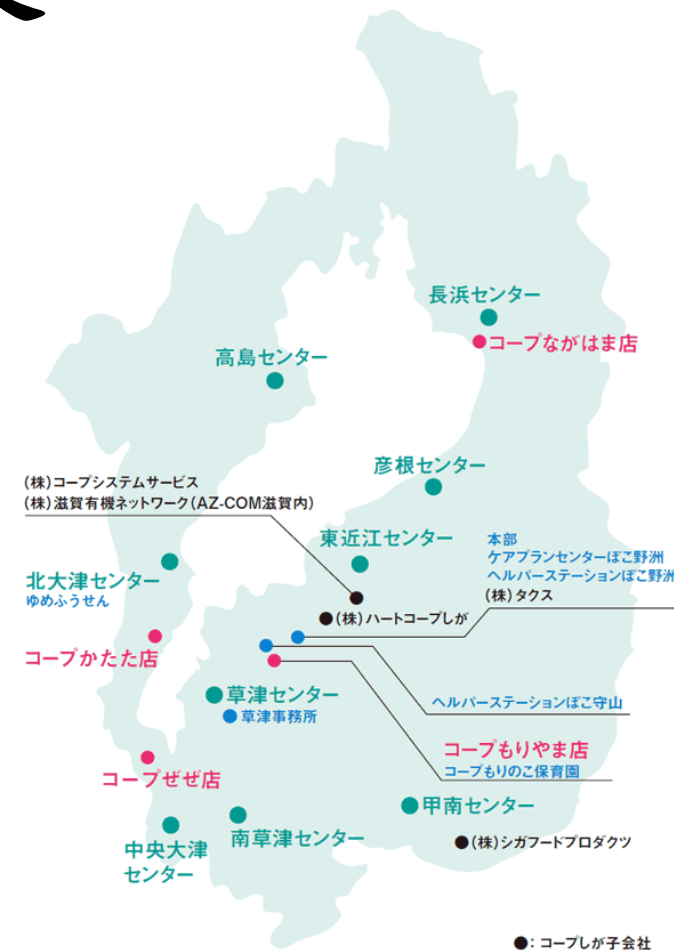




コープしがの事業

◆理念 「ともにつくる 笑顔あふれる未来」

◆事業 宅配事業・店舗事業・夕食サポート事業
共済事業・エネルギー事業・介護事業 等



組合員活動

たべる  たいせつ

びあこ  たいせつ

ちいき  たいせつ

くらし  たいせつ

いのち  たいせつ



しがのふるさと支え合いプロジェクト

しがのふるさと支え合いプロジェクトは、農山村の活性化や新たな価値の創造を目的に、中山間地域と企業・大学・高校・NPO等が協働活動を行うプロジェクトです。

中山間地域

こんなことで困りですか？



- ・農作業の
人手が足りない！
- ・地域活性化の
アイデアが欲しい！
- ・特産品を開発したい！

企業・学校・NPO

こんなことで困りですか？



- ・持続可能な社会
づくりに貢献したい
- ・中山間地の農業を
実践的に学びたい！
- ・フィールドワークの
場所が欲しい！

県がマッチング



中山間地域と企業等の間に県が入り両者の話を伺います。合意が出来れば、協定を結び、3年以上の協働活動を行います。

3年以上の協働活動



県内では様々な協働活動に取り組まれています。

- 活性化検討会
- 地域特産品の開発
- イベント支援
- 棚田保全作業 … etc

しがのふるさと支え合いプロジェクト

令和4年度 しがのふるさと支え合いプロジェクト

【活動地区：高島市知内】

コープしが



知内農業組合



協定の目的 知内集落の活性化と消費者との絆の創出

協定における連携・協力事項

- 1 魚のゆりかご水田の取組
- 2 都市農村交流支援

しがのふるさと支え合いプロジェクト協定書

生活協同組合コープしが（以下「甲」という。）と知内農業組合（以下「乙」という。）は、「魚のゆりかご水田」の取組を通じた知内集落の活性化および消費者と産地の絆を深めることを目的として、相互に連携・協力しながら、協働事業に取り組むこととし、次のとおり協定を締結する。

（連携・協力事項）

第1条 甲および乙は、次の事項について、連携・協力のもと、相互に合意した具体的な事業に協働で取り組む。

- （1）魚のゆりかご水田の農作業に関すること
- （2）都市農村交流に関すること
- （3）その他両者が協議して必要と認められる事項

（期間）

第2条 この協定の有効期間は、締結の日から3年間とする。ただし、有効期間満了の日の1か月前までに、甲乙いずれからも改廃の申入れがないときは、更に1年間同一内容で更新するものとし、その後も同様とする。

（その他）

第3条 この協定に定めのない事項または疑義等が生じた場合は、甲乙協議して定めるものとする。

この協定の証として本協定書を3通作成し、甲乙および立会人署名の上、各自1通を保有する。

令和4年11月10日

甲 滋賀県野洲市富波甲972
生活協同組合コープしが
理事長

白石一夫

乙 滋賀県高島市マキノ町知内2033-1
知内農業組合
組合長

橋本久義

立会人 滋賀県大津市京町四丁目1番1号
滋賀県知事

三浦大造



PJ／魚のゆりかご水田の取り組み

琵琶湖から湖魚が田んぼへ遡上できるよう排水路に魚道を設置することにより、昔ながらの水田環境を取り戻す取り組み…それが

「魚のゆりかご水田プロジェクト」
その効果として、生態系の再生、地域の環境意識の向上など、多くのことが期待できます。

びあこ  たいせつ

ちいき  たいせつ

たべる  たいせつ



PJ／魚のゆりかご水田の取り組み



PJ／魚のゆりかご水田の取り組み

5月25日

田植え当日の朝、
たんぼに魚たちが戻ってこれるように
『魚道づくり』をしました。



5月25日

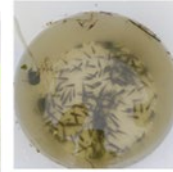
さあ！田植えです。みんなの出番です㊤



知内組合のいちご農家さん
からの差し入れです！

6月22日

生きもの観察会



9月13日

ついに稲刈り！！



548kg収穫
できました



マキ/ビックランドのズドウもごちそうさまでした！

PJ／参加者の声①



子どもにお米を大切に
食べる・残さない・感謝する
気持ちをもってほしかったから



年々、近所に田んぼが
減っていて、子どもに
お米を身近に感じてほ
しいと思ったから

去年参加して
子ども達が
想像以上に
楽しんでいた
から



しがのふるさと支え合いプロジェクトに
参加しようと思ったきっかけ



子どもが今年も
参加したい！と
言ったから



普段食べているお米が
どのようにして食べられ
るようになるのかをを考
えるきっかけになればい
いと思ったから

自然の中で行う
お仕事や生活に
興味があったから



PJ／参加者の声②



お米のありがたさを感じてもらえる
大事な教育だと思いました。

日々管理してくださっている方と
お会いできたので、この体験を通して、
子ども達にお米を大切に
食べてほしいと思います。

子どもが小さい頃からお米が
どうやって食卓までやってき
てくれるのかが学べてとても
いい機会だと思います。

ありがとう
ございました

自然の恵み・それにまつわる
小動物の営みを体感できる
機会になりました。

高島の自然の豊かさを知り、
イベント以外でも親子で生き物
を見に来たいと思いました。



今年で3回目、いつも楽しく
参加させていただいています。
子どもも大人も楽しく学べて
とても良い取り組みだと思います。
来年もぜひよろしくお願いします。



PJ／参加者の声（お子さんから）

農家さんへのメッセージ

おこめをぜったいたいせつにする
おこめをたいせつにたべます



楽しい体験をありがとう！

知内皆さん
ありがとう
しました

農家も楽しいかと思いました。



美味しいお米をありがとう！

おいしい食べれるお米に育ててくれてありがとう
ごちそうさ。

コシパインのせてくれてありがとう



お米が育てないときにお米を育ててくれてありがとう

私たちが育てられない時に
お米を育ててくれてありがとう！



おいしいお米、全部食べる！
ありがとう！



まいにちおいしいおこめをくださり
おいしいおこめを食べてまいにちせうふ
べるようにしてまね

もっと多くの人へ知ってもらう

はたらきかけときっかけづくりをともに★★

これから★★

